

みんなで創ろう・造ろう・作ろう

学校や学生に関する痛ましい事件が続く。残念なことである。

我々は、マスコミを通じて事件を知ることとなる。

教育に関心が向くと、連日のように事件が報道され、過去に起きていたことも掘り起こされる。

報道に事件として出てこない時は、本当に事件が起こっていないのか。

冷静に考えなくてはならない。

さて、9人の若者に対する殺人事件。

SNSを規制する方向性が出てきているが、根底は自殺したいと考えてしまう若者の存在が多いということだ。道徳教育の充実だけでは解決しないレベルである。学校に責任があるのかもしれないし、家庭に問題があるのかもしれない。

また、高校生が水死した事件。

毎日、事故現場近くの川沿いを通勤しているが、事故現場の手前は斜面がもっと急で、歩道横の数十センチメートルのフェンスを越えたら死が待っているような環境である。毎日、小学生をはじめ多くの学生が通っている。

水害対策にまず視線が向き、学生の登校はその次の視点であったのかもしれない。学校の対応も可能であったかもしれないし、首長部局や地域の危機管理の対応も必要であったのかもしれない。

先日ある中学校の授業を見学することができた。

みんなよく頑張っていた。先生も一生懸命指導してくれていた。

しかし、教室の中に40人近くの大きな体の中学生が、小さな机・椅子に座り、たくさんの教材を前にぎゅうぎゅう詰めである。対話的な学び・深い学びを目指し、グループを作らせたり、ワールドカフェタイプの授業を実践する。しかし、都会の通勤時の満員電車の中で行っているような状況だ。

また、中には旧態依然の一生懸命一方的に説明をする先生、生徒へは発問しても考えさせる時間をつくらず、すぐに答えを示したり、話題を変えたりする先生も存在する。

半日、授業を見せてもらったが、心地よくない疲れが残った。自分がそうなのだから生徒は大変な状況だろう。

自分も含め先輩諸氏の時代は「40人学級以前は50人近くいた」のである。しかし、体格も大きく、教具も備え、活動的な授業を行う。時代は変わっているが、環境は全く変わっていない。

極論すると刑務所の環境と国立大学学生寮の環境は変わっているが、学校環境の改善はスピードが遅く地域差が大きいように感じている。

教育は、みんなの手で「つくる」ものである。

主権者・納税者である住民は、どのような教育が必要か、偏った一部の声ではない全体を俯瞰したグラウンドデザインを「創る」必要がある。そのための独立・合議組織の教育委員会制度が存在する。

学校設置者である自治体は、住民に説明しお金を確保し良好な時代に応じた環境設備を「造る」ことを怠ってはいけない。

教員は学習指導要領の理念をもとに次代を生きる子どもたちに必要な資質・能力を身につけさせるための授業を「作る」り、校長はそのための教育課程を「作る」のである。

誰が所管するかではなく、責任転嫁でもなく、みんなで「つくる」、それが教育なのである。

こうすることで、不登校も減り、自ら人生を終わらせる若者が減ると確信する。